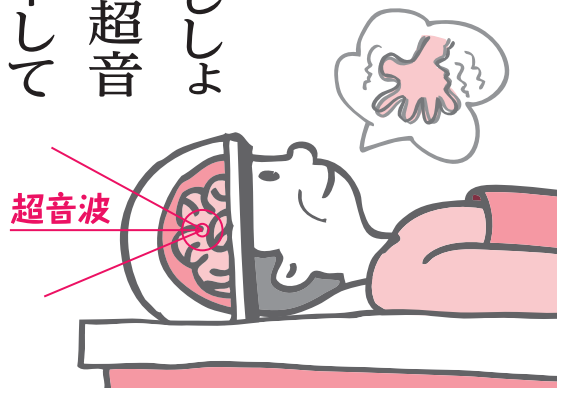
# 本態性振戦の治療

## Q 本態性振戦に対して薬が効かない場合の新しい治療について教えてください。

A 字を書く時や物を持った時に手が震える原因として多いのが、本態性振戦（しんせん）という疾患です。この疾患に対する新たな治療法として、MRガイド下集束超音波療法（MRgFUS）をご紹介します。これは、症状の原因の一つと考えられている大脳へつながる神経の中継地点「視床（ししょう）」の一部に、超音波を一点に集中して照射し、凝固させることで症状を和らげる治療です。2020年9月から、服薬による改善が不十分な場合に保険適用となりました。この治療の利点は、剃髪（ていはつ）は必要ですが開頭する必要がないことで、頭部をMRI装置内で固定し、超音波を集束するヘルメットを装着して治療します。治療時間は3~4時間ほどかかりますが、薬が効かない方の半数程度に改善が期待できます。ただし、リスクが全くないわけではなく、治療を受けられる施設も限られています。四国では松山市、中国地方では岡山市で実施されています。詳しくは集束超音波治療（FUS）の公式サイトをご参照ください。まさに振戦の新戦力、これで生活の「支障」が少なくなればいいですね。






朝倉病院
理事長／院長
田辺　裕久さん

高知市朝倉丙1653-12 TEL088-844-2701〈神経内科・リハビリテーション科〉